

SSKS 療育ねっとわーく川崎

2020年7月20日発行
No.231 (4000部)
NPO法人
療育ねっとわーく川崎
発行者 江川 文誠
編集者 谷 みどり

た、入院する、最悪くなる」。感染病

Mさん.. コロナウイルスの影響で困

Yさん.. 太った。
Mさん.. 今もそうですが行きたい所にも

Wさん.. 病院に行けず、電話で処方箋を

Q、みなさん自粛期間中

今回は新型コロナウイルス



今月号の目次

- 1 こんなときどうするの.....1
- 2 新型コロナウイルスの影響について.....3
- 3 リフター研修.....4
- 4 第20回総会の報告.....5
- 5 やまゆり園事件の何を裁くべきか.....6
- 6 移動したい、その人らしく生きる権利.....7
- 7 45日間の自粛生活.....8

Q、どのようにして過ご

の場合、感染したとなった時が、最悪

ご本人との最期の顔をあわせる事にな



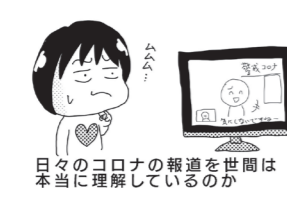
花粉症なのに換気のために窓を開けなければならない



運動不足で体重が増えた



今までよりお金がかかる



日々のコロナの報道を世間が本当に理解しているのか



しっかり手を洗う



しっかり準備して外出するようになった

皆さんが自粛期間中困ったことや過ごし方

Aさん.. 子供と遊んだり、漫画や読書

発行所 〒一五七〇〇七二 世田谷区祖師谷三十一番一〇二

リフター研修

サポートセンター Rond は、10年ほど前に、入浴介護中の腰痛予防のために、リフターを導入しました。しかし、機器は揃えましたが、やり方は見よう見まね、今から考えると冷や汗が出そうなことをしていました。そんな時、シャワーチェアの購入をきっかけに、クリエイティブの阿部さんに関わってもらうことになりました。阿部さんは、JASPA 介護リフト普及協会のリフトインストラクターをされていて、利用者さんそれぞれに合わせたスリングシート of the フィッティング、安全かつ快適なリフトの使用法など、一から教えていただきました。その後、何度もリフター講習会を行うことによって、職員間の共通理解が進み、どの場面でも基本を守った使い方ができるようになり、利用者の方にも、「リフターの方が安心」といわれるようになりました。今回、阿部さんから、研修会を地域の皆さんにも広げてはどうかという提案がありました。「リフトは入れたけど、使い方がよくわからない。」「うまくフィットできない。」あるいは、「リフトのことを知りたい」などのご要望にこたえるプログラムを考えました。



クリエイティブオフィスショールームでも体験できます

■初めてコース おもにご家族向け
リフターを使ったことがないので、体験してみたい
場所：サポートセンター Rond のリフトを利用
時間：2時間程度 費用：1名 3,000円～
定員：8名程度

■職員向け グループ向け
リフターの安全快適な利用を知りたい
場所：サポートセンター Rond のリフトを利用
時間：半日コース・1日コース
定員：6名
費用：15,000円/回

■職員向け 出張研修
事業所のリフトを利用しての研修
場所：リフトのある各事業所に出張しての研修
時間：半日コース・1日コース
定員：4名
費用：15,000円/回

■ご家庭向け
リフトの導入を考えている方に
場所：ご家庭にリフトを搬入して実体験
時間：ご希望に応じて
費用：無料

「職員研修」参加者の感想：自分が身に着けた技術が、何のためにやっているのか、それをすることによって、何をを目指すのかが、理論的により明確になった。実習実技を日常繰り返した上で研修を受けることは、スキルアップに必須だとわかった。利用者さんの側の不快さ、痛みは何か、より知ることができた。自身で感じることで、体験することができてよかった。

■クリエイティブオフィスショールームでも体験ができます。
ご連絡・ご相談は、クリエイティブオフィス住所は東京都小平市津田町2-2-6 TEL042-342-2884 または、サポートセンター Rond TEL044-930-0160 tani@rond.jp

会員・賛助会員募集

(連絡先) 〒214-0014 川崎市多摩区登戸2981 サポートセンター Rond
TEL 044-930-0160 Fax 044-930-0128 e-mail: tani@rond.jp http://rond2981.jimdo.com/
(会費振込先) 郵便振込 00280-2-26842 特定非営利活動法人療育ねっとわーく川崎
■会費・賛助会費の別をお書きください。振込用紙が必要な方はお知らせ下さい。年会費 2500円 賛助会費 一口 1000円



新型コロナウイルスの影響について

のり せいじょうほう
紀さんの制度情報

緊急事態宣言も解除され、少し収束してきたように受けとれる、行政の対応や、報道が続いていますが、まだまだ油断は禁物です。

行政からは、福祉事業は「縮小してでも出来る限り継続を」という通達がありました。現場の状況を見ていただければ、一律にこのような通達は出せないと思いますが。

私たち障害児・者にとって新型コロナウイルスの影響は、とても大きな問題です。

制度的なこと

ロンドに限らず、今回のように日中活動の場などが、閉所や利用制限をした場合、自宅等で過ごされなければいけなくなりますが、その間の代替措置として、居宅サービスなどの臨時の増量が認められました。このような対応をすぐに行政側がしてくれたことは、私たち障害児・者にとっては、安心につながることでした。

それでも不安は残ります。

もし、自分のような重度障害児・者が感染の疑いがある場合、まずすぐにPCR検査をしてもらえるところがあるのか。

感染が判明した場合、入院させてくれる病院はあるのか。

なぜかと言えば、私たちのような、いわゆる重度障害児・者は、健常者に比べて基礎体力が圧倒的に低く、同様に呼吸器系も弱い。という人がほとんどだと思います＝感染した場合の重症化のリスクが高い。このことを検査機関が理解してくれているのか。国が言っている「特定疾患のある人」と同様に優先的な扱いをしてくれるのか？

仮に感染が判明した場合、障害特性に応じた配慮をした受け入れをしてもらえる病院はあるのか？医療的ケアや、コミュニケーション支援を必要とする方ならなおさらだと思います。

また、家族が感染した場合、家に残った障害児・者の支援は誰がしてくれるのか。などなど不安がいっぱいです。

川崎市新型コロナウイルス感染症コールセンターに聞いてみました。

重度障害者の方で、発熱等があり、新型コロナウイルス感染が疑われる場合は、まずはかかりつけの医療機関に、前もってお電話で相談してから受診していただくのがよろしいかと存じます。かかりつけの先生が診察を行い、疑いがある場合は、各区の帰国者・接触者相談センターの相談をしていただくか、あるいは、かかりつけの医療機関が川崎市医師会に加入している医療機関であれば、川崎市医師会が運営している集合検査場を御紹介していただけると存じます。

また、仮に感染が確認された場合は、川崎市が指定する新型コロナウイルス感染者を受け入れる療養所や医療機関で治療を受けていただくようになりますが、その際には、各区役所地域まもり支援センター高齢・障害課の障害者支援係にご相談をいただき、入院に際しての調整をしていただくのがよろしいかと存じます。

また、ご家族の方が感染して不在となった場合は、短期入所支援事業を利用することなどが考えられますが、その際も、各区役所高齢・障害課障害者支援係にご相談をいただき、調整をしていただくのがよろしいかと存じます。

れいわ新撰組 鉄道予約をネットで

昨年、重度障害者として初めて国会議員になったれいわ新撰組のお二人。最近、車椅子での新幹線利用に関して、動きがありました。

昨年12月の参議院国土交通委員会。れいわ新撰組の木村議員が新幹線の車椅子席について、「切符の購入に時間がかかる上にネット予約が出来ない」「当日になると車椅子席が一般席として販売されてしまう」「車椅子スペースが狭く、通路を塞いでしまう」ことなど利用には多くの制限があるとして、赤羽国土交通大臣に改善を訴えました。現状について赤羽国交相も「けしからぬ話だ」として強い言葉で応じました。そして同月中旬に、「新幹線のバリアフリー対策検討会」が早速開かれます。検討会はDPI日本会議などの障害者団体のほか、「各社や国交省も参加する大規模なもので

検討会では、ソフトとハードの両面から多くの問題が議論されています。ソフト面では、車椅子席の指定券販売方法が問題になっています。

現状はみどりの窓口か電話で多くの時間をかけて予約の依頼と調整を行い、その後のみどりの窓口で発券する手順のため、購入までに多大な時間と労力を要します。これについてはひとまず、5月よりすべての新幹線で「ネット予約」が可能になりました。ただ可能なのは乗車3日前までの予約のみで、購入にはみどりの窓口まで出向かなければならず、指定席券売機や郵送、ネットでの購入は対応していません。

ハード面では、「車椅子席の数が少ないこと」「車椅子スペースが狭いこと」などが問題になっています。車椅子席の数については、1編成に1〜2席しかありません。これは定

員がもっとも多く、全列車が1300名以上を運ぶ東海道新幹線でも同様です。このためパラリンピックや研修・旅行などで車椅子の団体利用ができないことが改善の対象となっています。これについては、国交省がバリアフリー基準を改正して車椅子席を増やすことを検討しており、そのための検討会がすでに6月に開かれています。

車椅子スペースの狭さについては、現状では車椅子スペースとして通常の座席1席分が撤去されている



だけですが、これだと車椅子が通路にはみ出してしまい、車内販売のカートが通る度に移動する必要があったり、そもそも大型の電動車椅子では利用自体が困難だったりします。こちらについては、ストレッチャー型車椅子が同時に2台乗車出来ることを目安に対応するとの話が出ています。改良方法として一般席を複数撤去して車椅子スペースを確保する案が出ており、さらに車窓が楽しめるよう窓側に「車椅子用フリースペース」を新たに設けることが検討されています。これが実現すれば、ただ乗車出来るだけでなく、景色を楽しむことにも配慮されるようになります。

国交省では、今夏をめどにバリアフリー整備の基準とガイドラインの更新を予定しています。当事者議員や障害者団体による訴えを中心に、理解があると思われる国交相やオリピック・パラリンピックの影響など、いろいろなことが絡み合っ事態が進展していくのを期待をもって見守っていきたいと思います。

(文・金子文俊)